

私を変えてくれた茶道

京都市立西京高等学校二年（京都府）

西村 明希

「コロナのせいで自分の高校生活は台無しだ」昨年の自粛期間中、毎日そう頭の中で思っていた。せっかく楽しい高校生活が始まるうとしていたのに、自分の思うような生活ができない日々焦って、悔しくて泣き出しそうになっている自分がいた。心にもほとんど余裕がなく、どうすればいいのか、いつ元の生活に戻るのかとても不安だった。毎日流れてくるコロナのニュースにただただ茫然とするだけだった。

— そんな時に自分の心に余裕を作ってくれたのが茶道だった。学校の茶室に入って和を感じてゆったり、まったりする時間が自分を落ち着かせてくれた。毎日沢山の不安を抱えて生活している自分にとって唯一その不安を忘れられる大切な時間だった。「今この瞬間を大切に精一杯生きよう。今日という日はもう二度と戻ってこない。明日どうなっているのか誰にも分からない。だからこそ後悔しない時間を

過ごそう」そう思わせてくれたのが茶道だった。

千利休は茶道において人と人との結びつきや心の静寂に重きを置いた思想を持っていたとその時知った。この思想は「人生は苦しいものである」という考えをもとにしたものらしい。彼の生きた時代は今の時代とは違って沢山の争いがあった大切な人を亡くした人も多かったと知った。この話を知った時、ふと自分の頭の中に浮かんだ。「苦しいときこそ千利休のように頑張ろう」と。千利休はそんな苦しい時代でも茶道を通して沢山のことを未来の自分達に伝えようとしてくれた。今度は自分達はその思いを受け取る番ではないのかと。そう思ってから、より一層茶道の時間は自分にとって特別な時間になっている。茶道をしている時は何か自分自身としっかり向き合えている感じがして毎日の生活を振り返れている気がする。「沢山の制限がある中でも自分達なりに最高の高校生活を送ろう」と前向きに考えられるようになった。自分一人だけがコロナの不安を抱えて生活しているわけじゃない。家族だって先生だって友達だって本当に沢山の人が抱えている。いつ、このコロナとの生活が終わって以前のような生活に戻るのかはまだ誰にも分からない。もしかしたら自分が高校を卒業するまで続くかも知れない。もしそうだとしても私は絶対に後悔の残った高校生活を送ったとは思わないだろう。茶道を通してしっかりと自分自身と向き合い、最高の時間を今もこれ

からも過ごせると信じているから。茶道との出会いがなかったらこんなにも幸せな時間を過ごせていないと思う。

これから先、どんな状況になっても茶道と一緒に乗り越えていけそうな気がする。今こうやって毎日学校に行って茶道の活動ができていることは決して当たり前のことではない。心から感謝しなければならぬと思う。そして、茶道という自分の考えを大きく変えてくれた素晴らしいものに出会えたことにも心から感謝している。有難う。